馬電菱の実会だより（NO. 10）

喜寿誕生祝いの花束贈呈

第１号は橋本源次さん

菱の実会だより９月号にてお知らせしたように、今年度総会にて会員が７７才を迎えた誕生日に菱の実会より花束を贈呈することを決定しました。

ただし、決定した時点ですでに喜寿を迎えている会員には、決定以降最も早く迎える誕生日に贈呈としましたが、その第１号に尾島町安養寺にお住まいの橋本源次さん（大正４年１０月３０日生）が該当者となり、１０月３０日に花束をお贈りしました。

なお、事務局では第１号を記念して花束をかかえた橋本さんご夫妻を撮影してきましたので、ご覧下さい。

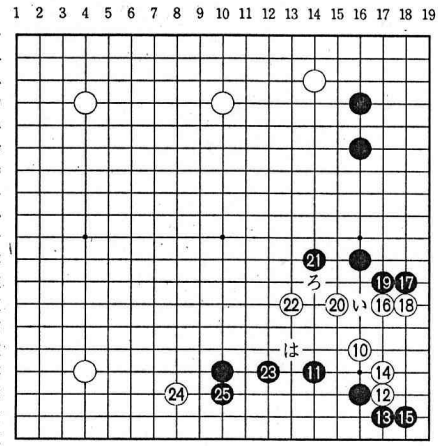
新聞の記事から

ちょっと遅くなりましたが、９月２３日付上毛新聞の「上毛特選碁」欄に今年４月９日で定年を迎え、菱の実会会員となった白井敬郎さん（菱の実会だより６月号参照）の記事が掲載されていましたのでお知らせします。

上毛特選碁

白 四段 白井 敬郎（太 田）
黒 三段 北詰 忠善（太 田）
（定先コミなし）

▽第2譜（10～25）10再掲



攻めのチャンス

白井敬郎さん

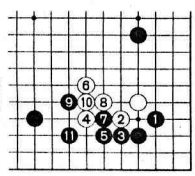
白井さんは昭和七年生まれの六十一歳。今年四月に三菱電機を定年退職された。碁については、比較的晩学で、三十歳ごろ本で勉強し強くなったという。現在は太田囲碁センターで腕を磨いているが、五十三年に日本棋院から四段の免状を取得している実力派だ。また、白井さんは将棋でも抜群の腕前で、もう二十年ほど前になるが、上毛新聞社主催の県大会で準優勝、平成三年の朝日アマの県大会でも県代表の実績を持つ強豪である。夫婦二人の生活で囲碁、将棋のほかにはテニスや、旅行などを楽しんでいる。

白10をみて黒11とケイマして攻めをはかる。白も12、14とツケ引いて黒の15のノビとなったが、黒は本譜のように10・十六に黒石のある場合、11の手で参考図のように黒1から11まで運ぶのも一つの定型で、黒有力とされている。ここはいろいろな打ち方のあるところで、白としては黒の16・十一が迫ってきているので、いずれにしても窮屈なところで戦っていくことになる。白井さんも10以降は手順が悪く、少し苦しい感じだったと述懐していた。

白は16と、ここに根拠を持って形をつくろうとするが、黒も17とケイマして簡単には治まらせない。白20は、いと打つのがしっかりしていたという。黒の21では、ろとケイマにカケて厳しく攻めるのがよかったと小暮さんの意見。また、黒23はのコスミがよかったという。白24のツメに黒25のサガリについては北詰さんも、やや消極的だったか、と反省していたが、コミのない碁なので、ついぬるくなってしまったという。白井さんも手を抜いて、ほかに回れたので黒25はありがたかった、といっていた。

（親戦記 田所穂積）

参考図



発行
1993-12-6　NO.10
発行責任者　近藤　真澄
編集者　下山順一郎
三菱電機労働組合群馬支部内
電話　0276(52)3874